「繭山星図」
（高知市民図書館蔵）

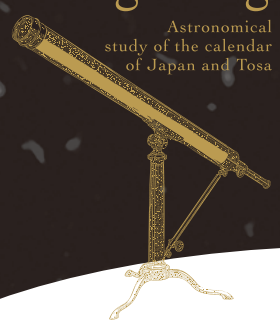
企画展

星を見る人

～日本と土佐の近世天文暦学～

Stargazing

Astronomical study of the calendar of Japan and Tosa



令和元年（2019）

会期 6月28日㊎→9月2日㊊

会場 高知県立高知城歴史博物館
3階 特別展示室

会期中無休

●開館時間／9:00～18:00 ※展示室への入室は閉館の30分前まで。
（日曜日、8月11日（日）～18日（日）は8:00～18:00）
※7月12日（金）～15日（月・祝）は、夜間開館延長（21:00まで）

●観 覧 料／一般700円（団体20名以上560円）高知城とのセット券890円
●高校生以下は無料 ※年間観覧券／2,000円

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者と介護者（1名）は無料。
※高知県・高知市長寿手帳所持者は無料。※観覧券は当日のみ有効です。（年間観覧券は除く）

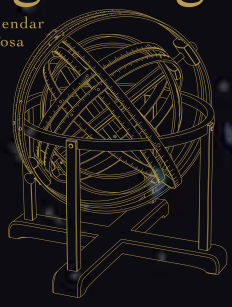
協力／高知みらい科学館

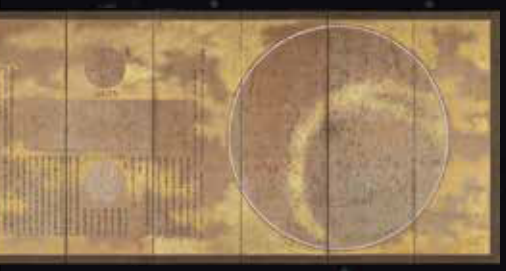
高知県立
高知城歴史博物館
Kochi Castle Museum of History

谷秦山書状 渋川春海宛（高知県立大学蔵） 初公開

Stargazing

Astronomical study of the calendar of Japan and Tosa





天文図・世界図屏風のうち天文図（個人蔵）
※前後期入替（前期：天文図 後期：世界図）

江戸、大坂・京都、そして土佐。遠くて近い日本の各地から星を見て、語らい、暦作りに情熱を傾けた科学者達の物語。

江戸時代は前近代の日本史上、最も天文暦学が発展した時代です。そしてその先駆者であり、800年ぶりの改暦事業を成し遂げた渋川春海（しぶかわはるみ）の愛弟子には、土佐南学者の谷秦山（たにじんざん）（重遠）がいました。

土佐と江戸、遠く離れた地で同じ空を見上げ、手紙を通じた交流を続けた2人。その心を受け継いだ川谷（かわたに）�